

## 1. 授業の概要(ねらい)

みなさんが在籍しているのは、高等教育機関の4年制大学である。学校に通うことの意味はさまざまにあるだろう。だが、卒業すれば大卒という肩書きを手に入れること、そしてその肩書きが就職を決める際にも無関係ではないこと、そうしたことは誰もが承知しているのではないと思う。

学校教育は、人びとを選び分け、格差のある社会的地位へと送り込む働き—それを教育の選抜・配分機能という—をもっている。教育社会学は教育のもつそうした働きを、主要テーマのひとつとして分析してきた。言い換えれば、学歴社会の仕組みを明らかにすることを得意分野としてきた。そこでこの授業では、教育のもつ選抜・配分機能を切り口として、教育と社会の関わりを検討していきたい。内容はどちらかといえば卑近で下世話なものである。しかし教育の選抜・配分機能は、私たちの生きている近代社会の掲げる、自由や平等という理念と関連している。とはいえ、声高に理想を叫ぶ前に、現実はどうなっているのかを見てみよう。そして、今までに明らかになったことから得られる示唆はなにか、考えていきたいと思う。

## 2. 授業の到達目標

教育の選抜・配分機能について学び、教育と社会の関わりを理解すること。

## 3. 成績評価の方法および基準

学期末試験(60%)と小レポート(20%)および平常点(20%)を総合的に評価する。

## 4. 教科書・参考文献

## 参考文献

天野 郁夫ほか 『教育社会学(改訂版)』(放送大学教育振興会)

伊藤 良高ほか 『教育の理念と思想のフロンティア』(晃洋書房)

## 5. 準備学修の内容

授業内容を把握するとともに、授業内で紹介する参考文献を読み、わからない用語を調べておくこと。

## 6. その他履修上の注意事項

この授業は、教育社会学への入門的な案内である。教育社会学IIでは、教育問題を中心に取り上げる。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:教育社会学の対象と方法
- 【第2回】 近代社会と教育(1):近代社会の成立に学校教育が果たした役割
- 【第3回】 近代社会と教育(2):近代学校はどんな点でそれ以前の学校とは違うのか
- 【第4回】 近代社会と教育(3):西洋における近代学校の誕生
- 【第5回】 近代社会と教育(4):自由・平等の理念と教育における選抜との関係①
- 【第6回】 近代社会と教育(5):自由・平等の理念と教育における選抜との関係②
- 【第7回】 教育と選抜(1):日本社会の近代化と教育の機会①
- 【第8回】 教育と選抜(2):日本社会の近代化と教育の機会②
- 【第9回】 教育と選抜(3):機会の平等の阻害要因①—経済的要因
- 【第10回】 教育と選抜(4):機会の平等の阻害要因②—文化的要因
- 【第11回】 教育と選抜(5):文化的再生産論①—バーンステインの理論
- 【第12回】 教育と選抜(6):文化的再生産論②—ブルデューの理論
- 【第13回】 ジェンダーと教育(1):ジェンダー(社会的性差)と選抜・配分の関係
- 【第14回】 ジェンダーと教育(2):性役割の社会化と「隠れたカリキュラム」
- 【第15回】 まとめ:近代社会の構造変容と教育(オンライン授業)